

願望構文における副詞の振舞いについて

山口 洋輝

1. はじめに

日本語の「V(シ)タイ」という形式の述語を取る願望を表現する文（以下願望構文）においては、目的語の格標示に対格と主格での交替が見られる。

- (1) (僕は)水を/が飲みたい。
- (2) (僕は)カレーライスを/が食べたい。
- (3) (僕は)映画を/が見たい。
- (4) (僕は)本を/が読みたい。
- (5) (僕は)車を/が買いたい。

(大江 1973)

Matsumoto 1996、Ohtani and Steedman（以下 OS）2008、Wunderlich 2014などで、願望構文は目的語の格によって構造が異なったものになると論じられている。すなわち、対格目的語を取るとき複文構造に、主格目的語を取るとき単文構造になるとされている。この構造の違いは、概略以下のように示される。

- (6) a. [NPnom [NPacc V]タイ]
- b. [NPnom NPnom [Vタイ]]

(6)で表されているように、対格目的語を取る願望構文（以下対格目的語願望構文）では述語がタイとそれに前接する基底動詞とに分かれた別々の要素として扱われ、主格目的語を取る願望構文（以下主格目的語願望構文）では基底動詞とタイは単一の要素として扱われる。

Matsumoto や OS によれば、目的語の格によって文の構造が異なることにより、副詞の振舞い、受動文化の可能性、「そうする」などとの言い換えにおいて違いが見られる。本稿では、これらの内副詞の振舞いに焦点を絞って論じる。本稿では、願望構文の構造は目的語の格によって直ちに決まるものではなく、副詞の振舞いには基底動詞の選

択が影響を与えると主張する。

2. 願望構文と副詞の関係について

2.1 文の構造と副詞の振舞い

願望構文において、副詞は基底動詞を修飾する解釈になる場合とタイを含む述語全体を修飾する解釈になる場合がある。解釈を複数持つのか、或いは一つだけ持つのかは副詞の意味によってそれぞれ異なる。以下で見るように、「明日から」や「隣の部屋で」などは基底動詞を修飾する解釈のみを、「ずっと」などは基底動詞を修飾する解釈とタイを含む述語全体を修飾する解釈の両方を持つと考えられる。

Matsumotoによれば、基底動詞のみを修飾する副詞は、主格目的語願望構文において使用が制限される一方、対格目的語願望構文においては文の容認度を低下させることなく使用できる。

- (7) a. {本当に/明日から/隣の部屋で} 英語を話したい。
b. {本当に/??明日から/??隣の部屋で} 英語が話したい。

(Matsumoto 1996: 109)

主格目的語願望構文において、副詞が主格目的語と述語の間に現れると容認度は更に下がるとされている。

- (8) a. 英語を{本当に/明日から/隣の部屋で}話したい。
b. 英語が{本当に/*明日から/*隣の部屋で}話したい。

(Matsumoto 1996: 115)

OSはこのような容認度の違いを以下のように形式化している。

- (9) a. NPハ(Adv)NPヲ(Adv)Vタイ
b. NPハ(??Adv)NPガ(*Adv)Vタイ

(OS 2008、日本語訳は筆者による)

(7b)と(8b)で、タイを含む述語全体を修飾できる副詞「本当に」の使用は容認度を下げる要因にならないことが示されている。よって、(9b)で文の容認度を下げるとされている副詞は基底動詞のみを修飾するものであると考えられる。

次に、基底動詞のみを修飾する解釈とタイを含む述語全体を修飾する解釈の両方が可

能な副詞について見る。そのような副詞として「ずっと」がある。Matsumoto は、「ずっと」は対格目的語願望構文で用いられた場合 2 通りの解釈が可能になり、曖昧性が生じるが、主格目的語願望構文で用いられた場合は基底動詞を修飾する解釈ができず、曖昧性が生じないとしている。Matsumoto による「ずっと」を用いた例文とその解釈を以下に記載する。

- (10) a. 僕はずっとその子を抱き締めたかった。
I wanted to embrace the child for a long time.
For a long time, I wanted to embrace the child.
- b. 僕はずっとその子が抱き締めたかった。
*I wanted to embrace the child for a long time.
For a long time, I wanted to embrace the child.

(Matsumoto 1996: 110)

(10b)では、「ずっと」がタイを含む述語全体を修飾し、「その子を抱き締めたいと長い期間思っていた」という解釈のみが可能になるとしている。一方、(10a)では上記の解釈に加えて「『長時間その子を抱き締めるということ』をしたかった」という基底動詞「抱き締める」を修飾する解釈も可能になるとしている。

(7)(8)(9)で基底動詞を修飾する副詞が主格目的語願望構文において制限されるといふ Matsumoto、OS の主張を見たが、加えて(10)の観察に基づけば、複数の解釈が可能な副詞でも、主格目的語願望構文では基底動詞を修飾する解釈はできないということになる。

このような副詞の解釈可能性の違いは、対格目的語願望構文が複文構造を、主格目的語願望構文が単文構造を持ち、それによって基底動詞とタイが(10a)のような文では別々の要素として、(10b)のような文では単一の要素として振舞うことから生じるものと説明される。

以上で見た先行研究の主張をまとめる。主格目的語願望構文では、基底動詞を修飾する解釈のみが可能である副詞を用いると（位置によって多少の差はあるが）容認度が低下し、基底動詞を修飾する解釈とタイを含む述語全体を修飾する解釈を持つ副詞は後者の解釈のみが可能となる。一方、対格目的語願望構文では基底動詞を修飾する解釈のみを持つ副詞を使用することができ、2つの解釈を持つ副詞は両方の解釈が可能となり曖昧性が生じる。

このことから、主格目的語願望構文における述語「Vタイ」は単一の要素として振舞い、対格目的語願望構文における「Vタイ」は基底動詞 V とタイが別々の要素として振

舞うものとされる。

以上見た Matsumoto 及び OS の研究では、目的語の格助詞によって願望構文の構造が clear-cut に分けられ、そのため副詞の振舞いに差異が見られるとされる。しかし、(10b)のような構文で「ずっと」がタイを含む述語全体を修飾する解釈が不可能とする判断には議論の余地があると考えられる。(11b)では、「一晩中」がタイを含む述語全体を修飾する解釈が比較的可能だと思われる¹。

- (11) a. 僕は一晩中ビールを飲みたかった。
b. 僕は一晩中ビールが飲みたかった。

(作例)

この文で、「一晩中」には2つの解釈の可能性がある。1つは基底動詞のみを修飾する解釈で、「ビールを一晩中飲み続けるということをしたかった」というものである。もう1つはタイを含む述語全体を修飾する解釈で、「ビールを飲みたいと一晩中思い続けていた」という解釈である。

対格目的語願望構文の(11a)ではどちらの解釈も可能であり、このことは先行研究の理論とも一致する。主格目的語願望構文である(11b)において、述語は単一の要素を成すとする先行研究の理論によれば、「一晩中」は基底動詞のみを修飾する解釈は持たず、タイを含む述語全体を修飾する解釈しか持たないと予測されるが、この文でも基底動詞のみを修飾する解釈、すなわち「ビールを一晩中飲み続けるということをしたかった」という解釈も問題なく可能であると思われる。

また、先行研究において、タイに前接する動詞によって副詞と共起する主格目的語願望構文の容認度判断には揺れが見られる。Sugioka (1984) では、基底動詞のみを修飾する副詞節と共起する主格目的語願望構文が自然だと判断されている例がある。

- (12) a. 僕は寝っ転がってテレビが見たい。
b. ??僕はテレビが寝っ転がって見たい。
c. 僕はテレビを寝っ転がって見たい。

(Sugioka 1984)

1 学習院大学の日本語母語話者の大学院生5名(内20代男性4名、20代女性1名)を対象に聞き取り調査を行ったところ、(10b)で「ずっと」が基底動詞のみを修飾する解釈が可能かどうかという点について、不可能(*)と判断した話者が3名、やや不自然だが不可能ではない(?)とする話者が1名、自然に可能と判断した話者が1名という結果だった。5名のインフォーマント全員が、(11b)では「一晩中」が基底動詞のみを修飾する解釈が自然に可能との判断を下した。

「見たい」が述語として用いられている(12)において、主格目的語と述語の間に副詞節が入る(12b)は容認度が低いが、主格目的語の前に副詞節が置かれる(12a)は容認度に問題がない文と判断されている。(12a)と対格目的語願望構文である(12c)が同様に自然な文とされている。

また、Matsumoto は、述語に「飲みたい」を取り基底動詞のみを修飾する副詞節が使用されている(13)で、主格目的語を取る場合でも、「副詞要素-主格目的語-動詞タイ」という共通の語順を持つ(7b)の場合ほど容認度は低くないと判断している。

- (13) a. 僕はジョンが来てからコーヒー {?が/を} 飲みたい。
 b. 僕はマリーが来たらコーヒー {?が/を} 飲みたい。

(Matsumoto 1996: 109)

副詞的要素の位置や目的語の格標示において同様の形式を取る文であっても、容認度の判断には差が生じることを見た。このような容認度の差は、述語の主格目的語の取りやすさと関係があると考えられる。次に、願望構文を対象としてコーパスを用いている先行研究を見る。

2.2 願望構文に関するコーパス研究

願望構文に関するコーパス研究を行なっている藤村(2009)や揚妻(2020)によって、述語に含まれる基底動詞によって主格目的語の取りやすさには差があることが明らかにされている。以下に藤村(2009)と揚妻(2020)のコーパス調査結果を引用する²。

表 1³

基底動詞	対格目的語	主格目的語	総 計	主格目的語の割合
する	564	101	665	15.2%
見る	119	54	173	31.2%
作る	168	1	169	0.6%
知る	119	30	149	21.1%
やる	118	11	129	8.5%
求める	110	0	110	0.0%
目指す	91	0	91	0.0%
つける	91	0	91	0.0%

2 引用した表について、用語は本稿で用いているものに合わせている。

3 藤村による元の表から「『を』の割合」(対格目的語の割合)の列を削除している。

伝える	87	0	87	0.0%
出す	86	0	86	0.0%
続ける	85	0	85	0.0%
図る	81	0	81	0.0%
進める	79	0	79	0.0%
得る	78	0	78	0.0%
送る	78	0	78	0.0%
聞く	68	9	77	11.7%
考える	72	0	72	0.0%
書く	60	4	64	7.2%
望む	63	0	63	0.0%
つくる	62	0	62	0.0%
持つ	62	0	62	0.0%
取る	61	0	61	0.0%
決める	58	0	58	0.0%
見守る	53	0	53	0.0%
表す	53	0	53	0.0%
描く	52	0	52	0.0%
広げる	50	0	50	0.0%
食べる	24	25	49	51.0%
避ける	48	0	48	0.0%
楽しむ	47	0	47	0.0%
かける	47	0	47	0.0%

藤村 (2009) より一部改変して引用

表 2 動詞別の～ガ+V+タイの例の集計 (BCCWJ による)⁴

動詞の種類	基底動詞	主格目的語の個数
飲食		563
(内訳)	食べる	414
	飲む	100
	食う	24
	すう (吸・喫、等)	15

4 揚妻による元の表から、(内訳)の中の要素は個数が多いものから順番になるように並べ替えている。また、表記ミスと思われる部分を修正している。

取得・保持・生産・装着		129
(内訳)	とる (取・撮、等)	30
	かく (書・描、等)	26
	作る	15
	着る	12
	いただく	7
	飼う	6
	生む	6
	貫う	5
	つくる (作・造)	4
	買う	4
	持つ	3
	借りる	3
	得る	2
	釣る	2
	詠む	1
	つかむ	1
	稼ぐ	1
履く	1	
情報発信		217
(内訳)	いう (言)	206
	おっしゃる	4
	語る	2
	書く	2
	話す	2
	伝える	1
知覚・情報発信		984
(内訳)	知る	364
	みる (見・観、等)	361
	きく (訊・聞、等)	226
	詠む	29
	味わう	2
	尋ねる	1
	うかがう	1
動作内容 + ガ + 動詞		696
(内訳)	する	614
	やる	82

その他の種類		62
(内訳)	使う	11
	つける	3
	弾く	3
	貼る	2
	うつ (撃・打、等)	2
	討つ	2
	その他の動詞	39
総 計		2651

揚妻 (2020) より一部改変して引用

表 3

分類	基底動詞	主格目的語	対格目的語	総計	主格目的語の割合
飲食	食べる	414	197	611	67.76%
	飲む	100	102	202	49.50%
知覚・認識	きく (聞・訊、等)	226	476	702	32.19%
	知る	364	797	1161	31.35% ⁵
情報発信	言う	206	313	519	39.69%
取得・産出	とる (取・撮、等)	30	356	386	7.77%
動作内容+V	する	614	2747	3361	18.27%
他に対する働きかけ	残す	0	86	86	0.00%
	おくる (送・贈)	1	132	133	0.75%
	殺す	0	61	61	0.00%
	みせる (見・観)	0	118	118	0.00%

原著者注:「オクルからは『時間を過ごす』の意 (人生を送る、等) は除いた。」

揚妻 (2020) より一部改変して引用

2つのコーパス調査の概要を述べる。藤村は検索プログラム「茶漉」を用いて、1991～1999年の毎日新聞 (総語数約2億語) を対象に調査している。目的語の後に他の要素が介入せず直接述語が来る形を検索し、出現頻度が上位30位までの動詞を表1にまとめている。中でも主格目的語を取る割合が高い「する」「見る」「知る」「やる」「食べる」は強調表示されている。揚妻はBCCWJ⁶を用い、[語形: ガ+品詞: 助詞×品詞:

5 揚妻による元の表では45.67%となっているが、計算ミスと思われるため、修正している。

6 現代日本語書き言葉均衡コーパス (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (2023年6月30日閲覧)) は、「書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータを格納して」いる。

動詞×語形：タイ+品詞：助動詞]という条件で検索している。上記の条件で検索してヒットした全ての動詞、動詞の分類、主格目的語の個数を表2に、また各動詞分類からいくつか動詞をピックアップし、それが取る主格目的語、対格目的語の数と割合を表3にまとめている。

表2、表3から、「食べる」「飲む」「食う」「吸う」といった飲食動詞が高い割合で主格目的語を取ることが示されている。藤村による表1ではこの内「食べる」しか調査結果に現れていないが、やはり主格目的語を取る割合が高いことが示されている。また、「見る」「聞く」「知る」などを含む認識動詞を基底動詞に取る場合に関しても、両者の調査結果で主格目的語を取ることが示されている。他方、「言う」や取得・産出カテゴリの動詞（「とる」「かく」「つくる」等）についての調査結果を見ると、揚妻の調査によればどれも主格目的語を一定数取るものとされているが、藤村による表1では「作る」の主格目的語が169例中1例、「書く」の主格目的語が64例中4例と、0例ではないが少ない数値を示している他、「言う」は表に現れていないなどの違いがある。

以上のことから、藤村、揚妻両者による調査で共通して「する」「食べる」「知る」「見る」「聞く」が基底動詞に来る場合は主格目的語を取る割合が比較的高いと言える。

補足的に、Matsumotoが例文で用いている「話したい」と「抱き締めたい」についてBCCWJで検索を行なった。以下の表4がその結果となる。

表4

基底動詞	対格目的語	主格目的語	総計	主格目的語の割合
話す	35	2	37	5.4%
抱き締める	11	0	11	0.0%

「話したい」や「抱き締めたい」が述語の場合、主格目的語を取る割合が低いことが分かる。

このように、先行研究で用いられている例文に含まれる述語をコーパスを用いて検索すると、主格目的語を取る割合に差があることが分かる。(7)(8)(10)では主格目的語を取りにくい「話したい」「抱き締めたい」が述語になっており、基底動詞を修飾する副詞の使用や主格目的語と述語間の距離が遠くなることなどの要因によって容認度が著しく下がるとされている。一方、(12)(13)では主格目的語を取る割合が高い「見たい」「飲みたい」が述語として用いられており、これらの例文では比較的容認度の低下は緩やかだと判断されている。また、本稿で行った日本語母語話者を対象とするインフォーマント調査では、(10b)では副詞が基底動詞のみを修飾する解釈ができなかった話者でも、「飲みたい」を述語に用いた(11b)では可能と判断した。これらのことから、主格目的語願望構文において基底動詞を修飾する副詞の使用や主格目的語と述語間に要素を置く

ことが可能かどうかは、目的語の格によって（構造が決まることで）決まるのではなく、基底動詞によって異なる可能性があると言える。

「飲みたい」「食べたい」「見たい」が述語の場合には、基底動詞を修飾する要素が主格目的語と述語の間に置かれている実例が見られる。BCCWJ で以下のような条件で検索を行った。

短単位検索

前方共起 1（キーから 1 語）語形：ガ+品詞：助詞

キー：キーの条件を指定しない

後方共起 1（キーから 3 語以内）語彙素「飲む」/「食べる」/「見る」

後方共起 2（キーから 4 語以内）語形：タイ+品詞：助詞

後方共起 1 の語彙素の部分は都度動詞を入力し、3 回検索を行った。検索結果の中で、前方共起 1 で設定したガが目的語の格を標示する格助詞となっておりかつ基底動詞を修飾する要素が主格目的語と述語の間に置かれている実例の数をカウントした結果を以下に示す。

検索結果

「飲む」の場合…1 件

「食べる」の場合…5 件

「見る」の場合…7 件

全ての実例を以下に記載する。

・「飲む」

- (14) この間飲んだファンタオレンジは妙に果汁の味が感じられる、上品な味になってました。自分は昔の合成料がバリバリ入ったようなファンタがもう一度飲みたいんですが。

(BCCWJ OC08_06163 Yahoo! 知恵袋)

・「食べる」

- (15) 左のデカイのが長男用のプリン。長男がおもいっきりプリンが食べたいというのでステンレスのボールで作りました！

(BCCWJ OY05_01769 Yahoo! ブログ)

- (16) 甘いものがお腹一杯食べたくて、みんなにおねだりしました。
(BCCWJ OY13_02792 Yahoo! ブログ)
- (17) かつて一緒に旅をしたことを思い出すイヌは、「きびだんご」がもう一度食べたいとつぶやいた。
(BCCWJ PB1n_00060 『桃太郎まつり ゆうぎ名人の手引書』)
- (18) あそこのピザがまた食べたい…。
(BCCWJ OC08_07774 Yahoo! 知恵袋)
- (19) いく予定なのはバイキングレストラン。甘いものが死ぬほど食べたいのは私だけだろうし、みんなはきっと別なものがお腹一杯食べたいだろうからと、行く先が決まりました。
(BCCWJ OY13_02792 Yahoo! ブログ)

・「見る」

- (20) 不完全燃焼だよ！！エリートヤンキーとライス（筆者注：どちらもお笑い芸人のコンビ名）が同時に見たかったんだよ！！
(BCCWJ OY14_35885 Yahoo! ブログ)
- (21) 最初の頃ってまだ男の子の硬そうな感じだったけどほぐれた感じがするというか。あの舞台のニコニコ顔が早く見たいです☆
(BCCWJ OY04_04030 Yahoo! ブログ)
- (22) どこかのチームに、伊原監督の復帰はないですか？鈴木康友&伊原春樹の1.3塁コーチーコンビがもう一度見たいです。
(BCCWJ OC06_05128 Yahoo! 知恵袋)
- (23) スカパーの七百二十一チャンネルでの再放送も、その2つはやってないのでしょうか？特にライオンキングの時のがもう1度見たいのですが…。
(BCCWJ OC01_01244 Yahoo! 知恵袋)
- (24) この人たちがテレビで見たいなーっていう。
(BCCWJ OY14_19578 Yahoo! ブログ)

(25) リズヴァーン（筆者注：ゲームのキャラクター名）が早く見た〜い。
(BCCWJ OY15_08942 Yahoo! ブログ)

(26) 先日来の再放送を何気に観て以来、続きが早く見たくなり・・思わず、録画していた物を見始めたら・・いまさらながらにはまりまして（単純）一気に・・見てしまいました…
(BCCWJ OY14_12505 Yahoo! ブログ)

これらの実例から、(8)や(10)で強く制限されるとされた主格目的語と述語の間に基底動詞を修飾する要素が入る文の形式が、述語が「飲みたい」「食べたい」「見たい」の場合には可能な場合があることが分かる。

2.3 考察

先行研究及び本稿で行った研究の結果を踏まえ、願望構文における述語と副詞の関係についての考察をまとめる。

まず、2通りの解釈が可能な副詞の振舞いについて、Matsumotoは主格目的語願望構文の(10)においては基底動詞を修飾する解釈はできないとしているが、(10)と同様主格目的語願望構文である(11)のように副詞が基底動詞のみを修飾する解釈も可能で、曖昧性が生じる文が存在する。また、(12)のように基底動詞のみを修飾する副詞を含む主格目的語願望構文を適切と判断している先行研究がある。これらのことから、主格目的語願望構文においても副詞が基底動詞のみを修飾する解釈は可能であると考えられる。

次に、主格目的語と述語の間に介入する要素がある場合について、コーパス調査によっていくつかの実例があり、不可能ではないことが明らかになった。

また、これらの現象は、基底動詞が飲食や知覚といった、主格目的語を取りやすいものである場合に見られるものであった。このことから、願望構文の構造は目的語の格によって clear-cut に決定されるものではなく、願望構文における副詞の振舞いは述語に含まれる基底動詞に影響を受けている可能性が考えられる。

3. 結語

本稿では、願望構文における副詞の振舞いが述語に含まれる基底動詞に影響を受ける可能性について論じた。今後はそもそもなぜ願望構文の述語に含まれる基底動詞によって主格目的語の取りやすさに差があるのかという問題について研究を進めたいと考えている。

参考文献

- 揚妻祐樹 (2020) 「現代日本語における助詞ガの『誤用』—『総記の拡大用法』と『とりあえずの格表示』—」『藤女子大学国文学雑誌』 103, pp.1-18.
- 藤村逸子 (2009) 「他動性再考：『被動作主』を表示する『が』と『を』の交替」 *Asian and African Studies* 13-1, pp.73-102.
- Matsumoto, Yo (1996) *Complex Predicates in Japanese: A Syntactic and Semantic Study of the notion 'Word'* Kurosio Publishers.
- 大江三郎 (1973) 「願望のタイの前でのヲとガの交替」『文學研究』(九州大学) 70, 1-11.
- Ohtani, Akira & Steedman, Mark (2008) "On Japanese Desiderative Constructions" 22nd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation, pp.290-301.
- Sugioka, Yoko (1986) "Interaction of Derivational Morphology and Syntax in Japanese and English" Garland Publishing, NY.
- Wunderlich, Dieter (2014) "Variations of double nominative in Korean and Japanese" In Doris Gerland, Christian Horn, Anja Latrouite & Albert Ortmann (eds.) *Meaning and grammar of nouns and verbs*. pp.339-372, Düsseldorf: University Press.